

授業科目	運動器系の解剖学				
担当者	山田 隆人 (実務経験者)				
実務経験者の概要	診療所、訪問看護ステーションにて作業療法士として勤務				
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

上肢の骨・関節・筋・体幹の骨・関節・筋について、骨実習や組織実習、体表解剖学などを通して学ぶ。

■ 到達目標

運動器系解剖学の基礎的知識を身につけ、それを骨標本・身体に適用することができるようになる。

■ 授業計画

第1回 全身骨格とその分類

1. 骨の標本を使って全身骨格を作る。
2. 全身骨格を軸骨格と付属性骨格に分ける。
3. 付属性骨格をさらに分類する。
4. 海綿骨と緻密骨を区別する。

第2回 脊柱と体表解剖学

1. 椎骨の基本構造。
2. 頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨について観察する。
3. 自分自身の体で椎骨を触知する。

第3回 上肢帯骨と体表解剖学

1. 肩甲骨の各部を観察する。
2. 鎖骨の各部を観察する。
3. 肩甲骨と鎖骨を触知する。
4. 肩甲骨と鎖骨の動きを理解する。

第4回 胸郭と体表解剖学

1. 胸骨の各部
2. 胸骨角
3. 肋硬骨と肋軟骨
4. 真肋と仮肋
5. 肋骨の各部
6. 第一肋骨（前斜角筋結節と鎖骨下動脈溝）
7. 頸肋と腰肋
8. 胸骨と肋骨の触知

第5回 自由上肢と体表解剖学

1. 上腕骨の各部
2. 橈骨の各部
3. 尺骨の各部
4. 手の骨
5. 手根溝
6. 自由上肢骨の触知

第6回 脊柱と胸郭の連結

1. 椎骨間の連結
2. 椎間板
3. 環軸関節（正中環軸関節と外側環軸関節、環椎十字靭帯）
4. 胸郭の連結
5. 肩鎖関節
6. 胸鎖関節

第7回 上肢の関節と靭帯

1. 肩関節
2. 腕尺関節
3. 腕橈関節
4. 上橈尺関節
5. 下橈尺関節
6. 手関節
7. 手根中手関節
8. 中手指節関節
9. 指節間関節

第8回 下肢帯骨と骨盤

1. 寛骨
2. 腸骨
3. 坐骨
4. 恥骨
5. 骨盤

第9回

1. 大腿骨
2. 脛骨
3. 腓骨
4. 膝蓋骨
5. 足の骨

第10回 股関節と仙腸関節

1. 股関節の構造と動き
2. 仙腸関節の構造と動き

第11回 膝関節、脛腓関節と足関節

1. 膝関節の構造と動き
2. 脛腓関節の構造と動き
3. 足関節の構造と動き

第12回 頭蓋骨その1

1. 頭蓋を構成する骨
2. 頭蓋骨の連結
3. 泉門

第13回 頭蓋骨その2

1. 眼窩 2. 鼻腔 3. 副鼻腔 4. 側頭下窩 5. 翼口蓋窩 6. 顎関節

第14回 総復習1

復習のための練習問題とその解説

第15回 実技試験

■ 評価方法

【科目試験(筆記試験)50%】小テスト 40% 実技試験 10% 小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規定に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

毎授業内容についての小テストを次回の講義時間に実施します。小テストまでに、授業で確認した内容を各自復習を行って下さい。

身体構造である解剖学的な視点に加え、運動学的な視点、触診などを演習的に行っていく予定である。触診などの技術的な内容は、必ず復習して置くこと。実技テストでは、触診などの技術的な内容を確認する。

■ 教科書

書名：標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版

著者名：野村巖 編集

出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

基本的な人体の構造を学びます。内容は国家試験で求められる内容を基本としています。

作業療法士の国家試験では、出題数が多い教科です。しっかり学びましょう。

■ 講義受講にあたって

講義では、受講者の体を用いて、触診等を行い確認します。触診がしやすい服装をお願いすることがあります。

